



第6期宮前区区民会議 第2回準備部会

みんなで力を合わせてくらしやすい地域社会をつくろう

平成28年7月14日(木) 18:00~20:00

宮前区役所4階 第2会議室

次 第

1 議事

- (1) 第5期区民会議の各区の審議状況について
- (2) 審議テーマ希望のまとめについて
- (3) 本日の部会決定までの流れについて
- (4) フリーディスカッション
- (5) 部会決定に向けて

(議事終了)

2 その他の連絡事項

第2回全体会

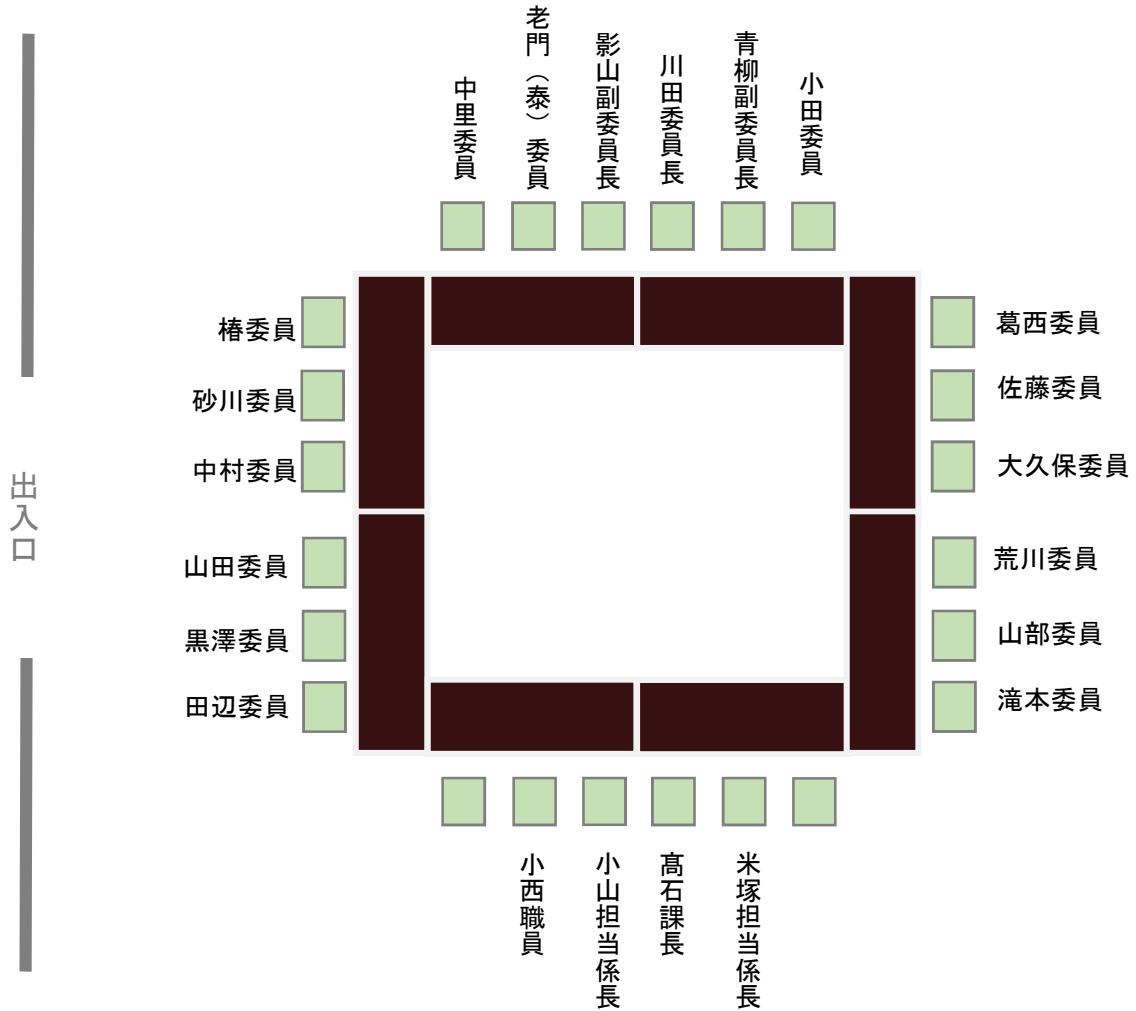
8月4日(木) 18時開始 会場: 大会議室

配布資料目次

- 1 座席表
- 2 第5期区民会議の各区の審議一覧
- 3 審議テーマ希望のまとめ
- 4 第1回準備部会摘録

第6期宮前区区民会議 第2回準備部会 座席表

平成28年7月14日 宮前区役所4階第2会議室



第5期各区区民会議 調査審議一覧

(平成28年7月14日現在)

区	部会名	審議テーマ	分野	テーマ(課題)の概要	新規・継続	課題解決に向けた方向性・提案
川崎区	地域を育むまちづくり部会	防災対策の充実	防災	災害発生初期段階で必要となる区民の自助力を高めるための取組について、調査審議を進める。	新規	○「わたしの防災手帳」…区民の自助力を高めるために家族防災会議を開き、その内容を書き込める手帳。 →これを活用し、家族防災会議を普及啓発する。 ○「地域防災マップづくりのすすめ」…地域で防災マップづくりを推進するための資料を作成。 →これを活用し、手作り防災マップの普及啓発を進める。
		子どもの遊び場づくり	子育て、公園	子どもが自由に自然にふれあえる場の確保創出に向けて調査審議を進める。	新規	○「公園づくり5カ条～誰もが楽しく、安全・安心に遊べる賑わいのある公園を目指して～」…子どもが自由に自然とふれあえる場の確保・創出に向けた5カ条を制定。
		交通安全対策の推進	交通安全	川崎区は交通事故に占める自転車関連の事故割合が高く、自転車事故多発地域に指定されている。交通安全対策の向上に向けた取組について、調査審議を進める。	新規	○交通安全対策の啓発や交通安全教室等…区民会議も警察や行政と一緒に参加していく。
	だれもがいいき暮らし部会	地域における見守り活動の充実	福祉	地域における見守り活動の充実に向けて調査審議していく。	新規	○見守り活動を紹介するパンフレット…地域住民による見守り活動を活性化するため、区内の町内会や老人クラブなどで行われている特徴的な活動を紹介するパンフレットを作成。 →これを活用し、地域住民による見守り活動の啓発・広報を行っていく。
		子育てを通じた世代間交流	子育て、世代間交流	子育てを通じた世代間交流を促進するため調査審議していく。	新規	○子ども育成支援団体の情報交換会の定期的な開催や既存の子育て関連イベントを通じた団体同士の交流促進…子ども育成支援団体の活性化を目指して。
		外国人市民も暮らしやすいまちづくり	多文化共生	外国人市民も暮らしやすいまちづくりの実現にむけて調査・審議していく。	新規	○外国人市民向けの防災フォーラム…外国人支援団体と連携した継続的な開催。
幸区	自転車事故ゼロ部会	自転車の交通安全対策	安全・安心まちづくり	第1期からの継続テーマである自転車の交通安全対策について、自転車ルールの周知対象や方法の更なる検討、実地調査を通じた自転車走行環境の改善策について調査審議をしていく。	継続	○自転車通行環境の改善…自転車事故が懸念される交差点等への路面表示やカーブミラー設置等による、自転車通行環境の改善。 ○自転車の交通ルールの周知・啓発活動…様々な広報媒体を活用した周知・啓発活動の一層の推進。 ○「体験型」の交通安全教室…主に高齢者を対象とし、地域活動団体との連携による、自転車シミュレータ等の機器を活用した教室の実施。
	地域力で暮らしやすいまち部会	○誰もが暮らしやすいまちの実現 ○地域コミュニティの活性化	高齢者・障害者・地域コミュニティ	誰もが安心して住み続けられる地域社会の実現に向け、地域全体で見守り、支え合う体制づくりを推進していくための方策等について調査審議していく。	新規	○地域住民主体の取組の支援…誰もがいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らしていくため、地域包括ケアシステムの構築につながる自助・互助の意識を醸成。 ○地域への支援の一層推進…地域コミュニティの更なる活性化に向け、町内会・自治会の効果的な取組事例を広く紹介するなど。

区	部会名	審議テーマ	分野	テーマ(課題)の概要	新規・継続	課題解決に向けた方向性・提案
中原区	課題調査部会・運営部会	地域コミュニティ、みんなでまちをきれいに	地域コミュニティ、環境	地域への参加意識の向上、地域への愛着やまちをきれいにする心の醸成を図り、ルール・マナーを守る地域の実現を目指した新旧住民や多世代住民間の交流の強化を目的として、区の地域資源を活用した環境学習、地域の美化などの取組を検討	新規	<ul style="list-style-type: none"> ○仕分けの達人ゲーム「等々カピカ美化大作戦」… →中原区版 仕分けの達人ゲームの制作と活用。区民祭りでの実施 ○人形劇による美化・リサイクルの啓発。 ○「なかはら一斉クリーンアップ大作戦」 →「きれいなまちづくり活動」の推進を提案。 ○「きれいなまちづくり」啓発掲示物の作成。
	課題調査部会・運営部会	地域コミュニティ、みんなで育てる交通マナー ～歩きやすいまちに～	地域コミュニティ、(自転車)交通マナー	区民の日常生活上、自転車の利用が切り離せないことや、自転車に関する道交法の規定の改正・強化などから、ルール・マナーを守る地域の実現を目指した新旧住民や多世代住民間の交流の強化を目的として、交通ルール・マナーの普及啓発や、交通マナーをみんなで育む取組を検討	新規	<ul style="list-style-type: none"> ○世代や対象に応じた啓発機会の拡大 ・スクエアドストレート方式の交通安全教室の拡大 →交通ルールやマナーの学習機会の強化・拡大を提案。 ○「みんなで育てる交通マナー」啓発資料の作成・活用を提案。 ○「みんなで育てる交通マナー」キャンペーン・イベントの展開
高津区	交通安全対策部会	自転車の交通安全や道路の環境整備	安全・安心まちづくり	前半で自転車の交通安全、後半で道路の環境整備に関する調査審議を行い、具体的な取組につなげていく。	継続	<ul style="list-style-type: none"> ○区民会議の活動紹介…「たかつ あん☆あんフェスタ2014(平成27年3月21日開催)」に参加し、ブースで紹介 ○自転車安全走行キャンペーン…警察との協働により、現場での注意喚起の実施 ○自転車の安全運転講習会の実施 →交通安全キャンペーンや講習会などを通じて、大人が率先して子どもの手本となり、地域ぐるみで交通ルールを守るという住民意識を喚起することを提案。 ○道路の危険箇所について、関係機関との協議・改善 →道路上にある人為的障害物に起因する危険性について、管轄部署と連携して速やかに対応することを提案。 ・道幅が狭く通行に危険の伴う道路については、中長期的な視点も含めて安全確保に向けた整備を行い、併せて注意喚起の標識設置も推進することを提案。
	防災・防犯の意識を高める部会	防災意識の向上や防犯に対する取組	安全・安心まちづくり	第2期、第4期区民会議における取組や提言を踏まえ、前半で防災意識の向上、後半で防犯に関する調査審議を行い、具体的な取組につなげていく。	継続	<ul style="list-style-type: none"> ○区民会議の活動紹介…「たかつ あん☆あんフェスタ2014(平成27年3月21日開催)」に参加し、ブースで紹介 ○備蓄品に関するチラシの作成 →区民一人ひとりが「自分の身は自分で守る」という自助意識を向上し、具体的に行動することを提案。 ○マンション懇談会…区内50戸以上の分譲マンションに対して、情報共有や課題を話し合う場として実施 →マンションに対して、防災対策への行政の支援について、様々な手段を活用し、積極的に情報提供することを提案。 ・マンション同士、およびマンションと町内会・自治会等とが顔の見える関係になり、連携した取組が行えるよう、懇談会など情報交換・共有の場を設けることを提案。
	地域を活性化する部会	福祉作業所の活動紹介や情報発信等	地域コミュニティ	前半で福祉作業所の活動紹介、後半で情報発信等に関する調査審議を行い、具体的な取組につなげていく。	新規	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉作業所の活動紹介…区役所ロビーを活用した展示、自主製作品の展示等の実施 ○地域イベントにおける啓発活動の検討 →障害に対する理解と関心を深め、誰もが地域社会で交流する「福祉」のまちをめざす「ふくシティたかつ」の継続・発展を検討することを提案。 ・地域のイベントへの参加などを通じて、障害者の社会参加を推進することを提案。

区	部会名	審議テーマ	分野	テーマ(課題)の概要	新規・継続	課題解決に向けた方向性・提案
宮前区	誰もが暮らしやすいまちづくり	誰もが暮らしやすいまちづくり	高齢者・地域コミュニティ	高齢になっても、障害があっても、住みなれたこのまちで暮らし続けることができる環境づくりを目指す。	新規	○ほっとやすらぎステーション (区内2ヶ所)での試行実施 ほっとやすらぎひろば(ミニコンサート等の開催) あんしんカードの作成と配置など ○ほっとやすらぎステーションの区内他地域への拡大
	みやまえ魅力探訪部会	行きたくなる、住みたくなる魅力の発信	魅力発信	豊かな自然・歴史・文化を区内外に発信し、訪れてみたくなる、そして暮らしてみたくなる、魅力あるまちをアピールしていく。	新規	○みやまえ魅力スポット寄ってこ！ガイド… バス停から最寄の魅力スポットへの案内表示(2次元コードの活用) 試行取り組みの検証と今後の継続、発展に向けた検討 ○みやまえハテナノタネの試験版… 地域資源を題材にした謎解き資料(地域学習や自由研究で活用) 発行に向けた検討、および地域の市民活動団体の協力による作成作業の進行。 ○「みやまえ魅力探訪ネットワーク」の構築に向けた取組の検討
多摩区	人・まち・わづくり部会	日頃の住民をつなぐ取組が被災につながる	地域コミュニティ	防災や減災のためには、良好なコミュニティ形成が必要不可欠であり、住民をつなぐための日頃からの取組、特に住民同士の「顔の見える関係づくり」のための取組について考える。	新規	○PRパンフレットの作成等…いざというときに、自分の命、家族の命を守るために、「向こう三軒両隣」の大切さを多くの区民に知らせる。
	多摩区の魅力いきいき部会	多摩区の魅力を掘り起こし発信する	地域活性化	生田緑地など、豊富な地域資源を持つ多摩区の魅力をどう掘り起こし、どうわかりやすく発信していくか。主に動画を活用した多摩区の魅力の発信方法を検討する。	新規	○映像(動画)の投稿・発信のためのプラットフォーム…設置、プラットフォームの活用の仕掛けづくり、プラットフォームの効果的な運営。
麻生区	若い世代が住みやすいまちづくり部会	若い世代が住みやすいまちづくり	子育て・若い世代	●子育てに関すること…子育て情報発信の仕方、子育てしやすい環境の検討 ●子供の居場所づくり…安心して遊べる場所が必要、公園のあり方など ●若い世代が定住するまち…新百合ヶ丘周辺のまちのあり方、若者の集う場所づくり、若い世代に魅力あるまち、芸術文化の情報発信の仕方	継続	○「(仮称)麻生シティセールス・PR部門」の設置…区民と行政が協働した組織体制で具体的な検討・取組を進める。区民会議も活用。 ○ホームページの改善…麻生区の魅力をPRする方法として。 ○麻生区のキャッチフレーズ…検討、活用。 ○「空き家ネットワーク」の構築…学生・若い世代や地域(町内会・自治会)、NPO・大学・民間業者等による。
	市民活動・地域活動の活性化部会	市民活動・地域活動の活性化	地域コミュニティ	市民活動・地域課題の活性化のための市民・行政が協働する仕組みづくりについて審議中 ●各団体や機関の事業の把握と、各イベントを総合した情報発信のあり方など ●町内会と市民団体の相違、連携について	新規	○「ボランティアのまち・あさお」…誰もがボランティアを身近に感じ、ボランティア活動に参加しやすい機運を高めるために掲げる。 ○「あさおボランティア情報センター(仮称)」の設置…地域に多数あるボランティア資源を活用し、関心のある区民の方々を様々なボランティア活動につなげるための仕組みとして、総合的なコーディネート機能を有する。 ○ボランティア情報の効果的な発信と情報の一元化 ○相談窓口の連携、入門講座や体験講座の開催等…ボランティアに関心を持った区民に対して「参加へのひと押し」をする。

審議テーマ希望のまとめ

3

分野	分類	課題のテーマ	第1希	第2希	合計	コメント・理由等	委員名	(参考) 関連が高いと思われるテーマ
A	交通	交通インフラの整備	2	1	3			
			○			・東急バス等のバス会社との連携で、バス便の向上。例：宮崎台までのルート。豊かな高齢者にはバス代を安くしなくてもよい。	中村	
			○			・コミュニティバスも含めた拠点病院・区役所等への交通インフラ整備、鷺沼駅周辺の再開発に合わせた政策提案とその実現。	山田	
				○		・第1～3期にて交通インフラ整備、地域の交通問題がテーマとして検討されるも、専門部会立上げには至らず。ベッドタウンとしての宮前区の交通便利・住み易い利点追及	黒澤	
A	防災	防災意識の向上	2	1	3			
			○			・いつ発生してもおかしくない災害に対処する心構えを作る ・「防災いろはカルタ」を作成し、幅広い層に防災意識を持ってもらう	小田	
			○			・災害時の衣食住はもとより家族に認知症や障がい者、様々な疾患がある方、また乳幼児がいる場合の対応など。被災地ではどのように困り、取り組み、乗り越えたか？学習用テキストの作成	川田	B地域福祉
				○		・電気、水道が無い時代の暮らしをヒントに防災訓練。「人力」+「縄文生活」+「農」+「都市型アウトドア」 ・現在地域を支える方の世代交代に若い人のアイデアを盛り込むと同時に、昔の生活を子どもたちに語る(火、自然、災害時の助け合いなど)	滝本	D世代間交流
A	住環境	住環境の整備	1	1	2			
			○			・馬絹付近は全般的に暗いと物流関係のドライバー等から聞いた	砂川	
				○		・健康寿命を延ばすための楽しく歩くコースの整備。車の少ない間道こそウォーキングに最適。目的地の表示や、トイレの整備など楽しさの演出。横浜では万歩計を配り目標達成に賞を出すなど積極的に行っている	老門泰	B高齢者支援

分野	分類	課題のテーマ	第1 希	第2 希	合計	コメント・理由等	委員名	(参考) 関連が高いと思 われるテーマ
B	地域福祉	地域包括ケアシステムの構築・機能化	4	2	6			
			○			・ご近所の助け合いの重要度が増している。地域包括ケアの「互助」はまさにこの精神であり、それをいかに地域で熟成させていくかが問題	老門泰	
			○			・地域包括ケアシステムへの区民の意見や知識が必要。速やかな運営を可能にする	葛西	
			○			・子育て、障害者・介護・貧困等にかかわる情報の一元化→冊子の作成により、区役所、市民館、カフェなどその場所に行けない人にも情報を発信し、悩みや問題解決への一助とする	椿	
			○			・地域みまもり支援センターができたことで、いままで地域に顔を出していた保健師が来なくなったような話を聞く。区役所から離れた地域での拠点づくりを目指す ・前回の会議で「防災」「地域福祉」「高齢者支援」「子育て」「世代間交流」など様々な意見が出たが、いずれも「地域住民相互のつながりが大切」がベースにあった。「地域住民が深くつながり、行政とも連携のとれる地域包括ケアシステム」ができるとよい	中里	D地域のつながり強化
			○			・地ケアについて勉強し、それぞれの関係者の役割を把握した上で、住民は何ができるのか検討する。地域ごとにやり方や担い手は異なるかもしれない	田辺	
			○			・貧困問題について区の現状を調査。食えること、教育のことなどの格差を無くす取組を	中村	
B	高齢者支援	認知症、引きこもり、健康寿命等の高齢者課題	1	1	2			
			○			・現在健康寿命70歳、平均寿命80歳と言われる。その差10年を縮めていく取組を考える	大木	
				○		・一人または高齢者世帯でもくらしにリスクを負わない安全な環境をつくる ・「高齢者110番」のステッカーを作り、外出する高齢者の支援体制を整える	小田	
B	子育て支援	子育て・孫育て	1		1			
			○			・考えるほどにわからなくなる。可能性を探っていきたい	老門聰	

分野	分類	課題のテーマ	第1希	第2希	合計	コメント・理由等	委員名	(参考) 関連が高いと思われるテーマ
C	産業振興	働く環境づくり、起業支援		1	1			
				○		・空き家、空き店舗を利用し、働きながら世代間交流、人材活用もできる場所づくり	荒川	D世代間交流
C	魅力発信	区への愛着強化	3	1	4			
				○		・ふるさとと思える様々な宮前独自の良さを創り出す仕掛けづくり	青柳	
				○		・「発信することが乱開発を招く」との反対意見があったが、神社仏閣・遺跡などはその価値を発信する事を止めてしまうと衰退・消滅する恐れがあり、同様の良くない結果になってしまう。住民や区外の人達にも価値を知ってもらう事が重要	佐藤	
				○		・「人が好き、緑が好き、まちが好き」のPR。例：川崎市まちの樹50選の内、区内にある樹の紹介や各自治会で行っている行事の紹介、区内の癒しスポット等の紹介	山部	
				○		・「地域に住み続ける人」には少なからず地域への愛着心があり、それは災害時などに大いに発揮されるものである。この「郷土愛」を醸成させるための魅力発信は重要と考える。発信していかなければ消えてしまう	中里	
C	魅力発信	区内外への魅力発信		1	1			
				○		・区内へはバスツアーの充実等なども教育的効果も考えて情報発信を強化し、区外については魅力発信ネットワークを展開(第5期に提案された魅力発信の充実・拡大)	山田	E5期提案継続

分野	分類	課題のテーマ	第1希	第2希	合計	コメント・理由等	委員名	(参考) 関連が高いと思われるテーマ
D	世代間交流	世代間交流の場・ひとづくり	2	3	5			
			○			・世代間交流の場所、気軽に立ち寄れる場所が区内には点在している。交通の利便を考え、核となる拠点(区役所周辺)を作り、豊富な区内の人的資源を活かす環境づくりが重要	荒川	
			○			・交流の場としての既存の公共施設等の利用・開放の偏在 ・新しい人材不足	影山	
			○			・多世代が集える場、仕組みを構築、人材育成する機関をネットワーク化	青柳	
			○			・高齢者や子育て中の若い人たち、児童などが互いに見守り見守られる交流の場が常時開放されていれば・・・	老門聰	
			○			・住民同士のつながり、転入者とのつながり強化	大木	
D	地域コミュニティ	地域のつながり強化	2	3	5			
			○			・地域包括ケアを成功させるためには互助が可能となるコミュニティの形成が欠かせない。具体的取組みを行っていくことで分野Bの分類4,5,6の一部をカバーすることになる	大久保	B地域福祉
			○			・地域の問題(高齢者・子育て・防災)は、ベースは「人手」の集まり方。日ごろの交流や行事の際のチームワークで暮らしやすさを住民同士で盛り上げていく。日常働いている人も参加しやすくする ・お手伝いカフェ、ボードゲームカフェ、子ども食堂、映像制作、逃走中ごっこetc.	滝本	
			○			・地域のつながりを生み出す「ルール」「ロール」「ツール」の不足 ・関係づくりのインセンティブの不足	影山	
			○			・「東日本大震災」や「平成28年熊本地震」を通じて、個々の防災意識の向上、住民同士・地域のつながりがとても重要であると感じた。災害が起こる前にさまざまな形での地域のつながりを構築していくことは、普段の生活にも、とても大切なことと考える	椿	A防災
			○			・誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続ける為に、防災のネットワークを構築し、安心、安全なまちづくりを目指す	山部	

分野	分類	課題のテーマ	第1希	第2希	合計	コメント・理由等	委員名	(参考) 関連が高いと思われるテーマ
E	その他	地域の合理的課題の把握・対応	1	1	2			
			○			・第5期の申し送り事項:「第6期での継続的な議論が必要なテーマを扱う専門部会設立」の要望に沿った専門部会を立ち上げる。新総合計画素案記載の「宮前区の課題認識」は寂しい→区民会議で協議検討・調査・実現	黒澤	A住環境の整備
				○		・交通インフラなど市への提案となるようなことも、どのようにすれば区民会議で提案できるようになるのかを考える時期ではないか	葛西	A交通
E	その他	過去の区民会議テーマの検証	1	3	4			
			○			・これまでの区民会議提案で実施されなかったもの、実施されたが先細り・不十分なものの原因を調査・究明する。区民会議のあり方や行政のフォロー体制まで踏み込む可能性もある。また、本当に重要な課題が見過ごされてこなかったかについても検討	田辺	
				○		・過去テーマの実効性・有効性を検証する機能がなくては区民会議を設置する意味が疑問視される。本来このことは区民会議の役目ではないが、PDCAサイクルを回す仕組みは必要	大久保	
				○		・今までの提案による関係部署での取り組みが、有効に区民の間で広まっているか?例えば第1期提案「防災推進員養成研修」は毎年各団体から1~2名が登録し研修するが、個人の研修に止まり地域に広げることが期待できるか?「みんなでやろう防災対策」はこれで良いのか、など過去の提案を再検証する	川田	
E	その他	5期までの提案の継続		2	2			
				○		・5期の提案がどのように進展しているのかを知りたい	葛西	
				○		・反対意見も出た魅力発信について、取り組みが途絶えてしまうと懸念している。地域の魅力を地域の人々が知ることで、休日も地域で楽しむ人が増え、やがては商業活動等も活発化し、ただの東京のベッドタウンになる事を防ぐことにもなる。	佐藤	C魅力発信

日時 平成28年6月13日(月) 18:00~20:00

会場 宮前区役所4階大会議室

出席者： 川田委員長、青柳副委員長、影山副委員長、老門泰三委員、大木委員、老門聰子委員、中里委員、椿委員、砂川委員、山田委員、黒澤委員、田辺委員、滝本委員、山部委員、荒川委員、大久保委員、佐藤委員、葛西委員、小田委員

事務局：(企画課長、企画調整担当係長、まちづくり支援担当係長、企画課職員)

欠席者： 中村委員

傍聴者： 0人

議題1 今期とりあげるにふさわしいテーマ分野・分類について(公開)

議題2 第2回準備部会に向けた進め方の提案(公開)

議題3 その他・事務連絡(公開)

1) 第6期宮前区区民会議でとりあげるにふさわしいテーマ分野・分類の中から各委員1つを選び発表。

■分野A:交通・防災・住環境

【交通】

影山委員 交通課題。私もここまでするのは大変。足元の問題をあらためて感じた。

山田委員 交通問題などは政策提案のような形になり、二年間の任期とうまく折り合いをつけるのが難しいとは思いますが、取り上げてはどうか。向丘地区や野川地区のインフラ整備の必要性は多くの方が合意できるだろう。

【防災】

小田委員 今、一番関心が高い防災。区内でも様々な情報が整理され、住民を巻き込んだ取組がされている。

滝本委員 (※分野D 地域コミュニティ 参照)

■分野B:地域福祉・高齢者・子育て

【地域包括ケア】

葛西委員 「地域包括ケア」の定義の明確化・支援メニューなどの情報の一元化。活動団体やボランティアがつながっていきける環境づくり。みやまえ子育てガイド「とことこ」の様な手法で事例取材・調査など進めながら情報発信。

中里委員 今年から本格化する地域包括ケア。地域に密着した拠点と、そこを核とした団体

の連携など。区役所から遠い地域、まだ連携が少ない地域などに課題がある。

黒澤委員 ゆりかごから墓場まで。暮らしていて良かったなと思えるまちづくり。自治会の本質的な課題でもある。

滝本委員 子育てと高齢者介護の「ダブルケア」に苦しむ方々。忙しい人ほど情報に辿りつけない。欲しい情報ほど糸が細い。困った時に飛び込める場、尋ねられる場が欲しい。

支援する／されるの選択ではなく、自分ができるところを選んで行ける場。例えばコミュニティカフェの中にお手伝いカフェを作って、親子や家族で一緒に行ける場とするなど。

椿委員 介護などに関する情報の一元化。地域のありがたみを感じるが、まだ課題がある。

みやまえ子育てガイド「とことこ」は、何かの時に開ける素晴らしい一冊で、私はかなり活用した。同じような手法でうまく地域包括ケアシステムを情報発信。

大久保委員 「地域包括ケア」の定義は明快に決まっているが、認知されていない。「在宅ケア」の「在宅」の定義も案外認知されていない。様々な情報を的確に拾って、つなぎ、広げていく作業をどこが行っているのか大きな疑問。私は今以上の公助と共助はあり得ないと考えている。互助と自助をどうするのか。自分が何をやらなければならないのか、何が足りないのかという見方が必要。みなさんと討議したい。

川田委員長 「地域一体型の福祉」の推進。支援が必要な高齢者が今後一気に増える恐れがある。近所の声掛け、気配り、見守りに支えられて、最後まで自宅で過ごすことができるように、生活者が自ら声を出して地域でやれることをやる。隣近所に声をかける人、近くに行く場所があるだけで安心に繋がっていき、防犯や振り込め詐欺防止などにもつながる。

【高齢者】

大木委員 高齢者の健康寿命を長くする方策の検討。

老門（泰）委員 相互見守り。高齢者に対象者を限らず、地域で総合的に広げていく。地域包括ケアをみんなが知ることから始め、学ぶ場を創出。認知症への対処方法などの知識がある人を地域に増やせば、人に優しい地域になる。

【子ども】

砂川委員 子どもの虐待防止。住民同士の顔が見える関係づくりを進め、互いの異変に気づきやすい関係をつくる。一番身近な地域で安全・安心な生活ができるようにする。今日も多世代の方々が私のお店に来てお茶を飲みながら雑談していたが、雑談の中から各人の生活状況や不安などが徐々に見えてくるようになり、相談してくれるようになる。身近な交流の中で足元から地域コミュニティ、安全安心のまちづくりを考えていきたい。

小田委員 子どもが多く、私の地域でも若い母親が頑張っている姿を良く見かけるので、子育て支援も取り上げたい。

老門（聰）委員 子育て支援、子どもの貧困、子どもたちの遊び場。冒険遊び場ももっと広げたい。子ども食堂などの取組も良いが、月一回では貧困の解決にはつながらない。親が忙しすぎて育児放棄の様な形になっていることもある。地域の中で先輩のお母さんが忠

告、声かけできるつながりのコミュニティができると良い。

■分野 C：まちの産業振興・魅力発信

【魅力発信】

田辺委員 魅力発信はもう止めてほしい。宮前区の素晴らしさは知人と話していても結構知られている。魅力発信が守りたい美しい緑の乱開発等に繋がる事もある。既にたくさんの資料が発行され、ネット上で情報が多く発信されている。

佐藤委員 「魅力」は発信すれば良いものではない。橘樹群衛跡は公園化して保存されたが、残していく意識がなければ住宅地になってしまっていた。何もしないことで魅力が失われてしまう例もある。どうバランスをとり、今後何をやっていったらいいのか考えていく。

青柳委員 地域の魅力をもう一度探る新しいしくみ。根底にあるのは地域活性化。働く場所、農地、寺社仏閣、人、子育て環境…全て地域の魅力につながっていく。

■分野 D：世代間交流・地域コミュニティ

【地域コミュニティ】

滝本委員 防災について身近な町内の人と話し合いたい。冒険遊び場と防災訓練のコラボ。子どもを連れて行きたくなるような防災訓練。毎年同じメニューの訓練では行く気が無くなる。近年の災害事例も参考にしながら、地域の人と語り合い、自治会や子ども会などの活動にもつながるような訓練。(※分野 A 防災)

荒川委員 地域の中で集まれる場や施設を若い世代でつくっていく。母親が働ける施設も地域の中であると良い。菅生の市民館では 30 年来の活動があり、会館を自分たちがつくってきた自負を持つ団体の方々がいる。高齢者もいきいきとしている。例えばマンションができたなら、建築業者の協力を得て、働く場所や集まる場所をつくっていく。

山部委員 地域のつながりがやはり一番必要。災害時などにすぐに助け合えるか。まち歩きで地域を見て、歩いて、聞くことを通じてコミュニティをつくっていく。地震は今後 30 年の間にくると言われている。共に何かをやりながらのコミュニティづくり。

影山委員 最終的には人。「民力」とでも言うべきもの。人のやさしさや交流。地域の気持ちや気力の向上。行政にお願いするばかりではなく、自ら手を出し、共に階段をあがっていく事。区内でたくさんの活動団体が頑張っており、コミュニティは良いところまで来ていると思うが、「資金」と「仲間を増やす方法」の二つの課題を抱えている団体や地域が多い。そこをもうひと押しする提案ができないか。

■分野 E：その他

【地域課題の把握】

黒澤委員 長期的課題や第 5 期からの申し送り事項の検討。これまで専門部会でなかなか検討されてこなかった課題や継続的な課題。本当の宮前区の課題が他にないかどうか検討したい。

山田委員 これまでは「まとめやすい課題」を選択してしまう傾向があったのではないか。長期的な課題を企画部会などでうまく取り上げたり、他の課題と組合せたりできないか。

大久保委員 各課題は重なり合う部分があり、リンクしている。類似する施策やこれまでの提案によって、回答があったり、次のステップへ行けたりするテーマもありそうだ。これまでの提案や施策をPDCAのサイクルで、きちんと継続性など考えていくことが必要だ。

青柳委員 眠っているテーマを掘り起こす専門部会。継続的な取り組みに向けた検討も必要だ。

影山委員 限られた時間の中で、短期的なテーマ、勢いや人気の高いテーマが選ばれてきた傾向があった。これまで見逃してきた課題の中に、磨けば光る課題があるのではないか。

田辺委員 「実現性」を慮りすぎると、小さな提案・審議になってしまう。地域の本質的な課題をじっくりしっかり捉えたい。

大木委員 多数決、たくさん意見があるから重要とは限らない。

2) 専門部会の立上げに向けた第2回準備部会の進め方

■長期的な課題、過去の区民会議からの継続的な課題の取扱いについて（意見）

川田委員長 長期的な課題や継続的な課題は専門部会として取り上げるにはそぐわないという意見もある。第三の部会として立ち上げることを検討してはどうか。

事務局 区民会議の開催回数等が本庁から共通の枠組みとして示されている。第三の部会を立ち上げる場合、公式な会議の回数のやりくり等が必要となる。

青柳委員 継続的な課題の審議方法については、現役の委員だけではなく、これまでのOBの方々なども含めて討議してはどうかという意見もあった。

田辺委員 調査だけでなく、区民会議の制度そのものも検討していく場になりうる。今までの専門部会と同じ取り上げ方でも良いと思う。

大久保委員 同じような取組、検討の経緯があった課題はその部分は引き算して考えたり、その提案の結果、現在における継続性などを踏まえて検証・検討していく必要がある。過去の実績や努力をうまく活かさないと、もったいない。

■次回の討議の進め方（結論・専門部会の立上げに向けて）

- ・ 資料4の書式に基づき、各委員は今期の区民会議で検討したい、取り上げるに相応しいと思う審議テーマについて、第1希望・第2希望で記載、事務局に提出する。
- ・ 長期的な課題、継続的な課題は別途扱いせず、それが重要、今期の審議テーマに相応しいと思う委員は第1希望・第2希望のいずれかにその旨記入して提出する。
- ・ 次回会議では、委員の希望テーマの集計結果をベースにディスカッションで（多数決ではなく）審議テーマの絞り込み・調整を図る。

3) その他（区民会議の進め方等）

川田委員 わからない言葉などあれば、率直に聞いていただきたい。区民に向けてアピールしていく意味でも高度性や専門性は必要なく、分かりやすくしていくことが重要。

小田委員 発言を求める順番はランダムではなく、名簿順など明快な方が良い。

中里委員 川田委員長の前回の全体会で発言された「ホームレスの課題」の様に、全体会に参加されている区役所の職員に現状の対応や行政の考え方など回答をお願いするような内容については今後も機会があれば、関係課にコメントや回答を求めていくのか。

委員長より今後もコメントや回答を関係課に求めていくことを提案→全員賛同。